

# 平成 29 年度 事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益財団法人 全日本柔道連盟

## I 法人の概況

1. 設立年月日 昭和24年5月6日

### 2. 定款に定める目的

この法人は、わが国における柔道競技界を統轄し代表する団体として、嘉納治五郎師範によって創設された柔道（以下、単に「柔道」という。）の普及および振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

### 3. 定款に定める事業内容

- (1) 柔道に関する競技者および指導者の育成
- (2) 柔道に関する競技会および講習会の開催
- (3) 柔道用具の公認および検定
- (4) 柔道に関する国際交流および国際貢献
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

### 4. 会員の状況

区分	当期末	前期末	増減
チーム数	8,727	8,878	-151
指導者・役員等	29,848	30,087	-239
一般・社会人	19,781	20,152	-371
大学生	12,867	13,879	-1,003
高校生	22,564	23,347	-783
中学生	32,954	34,500	-1,546
小学生	35,613	35,271	+342
未就学児	1,731	1,727	+4
登録者計	155,367	158,963	-3,596

### 5. 主たる事務所、分室の状況

主たる事務所： 東京都文京区春日1丁目16番30号 講道館本館5階

従たる事務所： 東京都文京区本郷1丁目33番13号 春日町ビル7階

## 6. 役員等に関する事項

	役職	選出	氏名	現職	生年月日	国家公務員職歴 (最終官職)
1	会長	指名	山下 泰裕	東海大学 理事・副学長	1957年6月1日	
2	副会長	指名	近石 康宏	ジブラルタ生命保険㈱ 顧問	1949年1月3日	大阪府警察 本部長
3	副会長	指名	梶木 壽	フレイ法律事務所 弁護士	1948年9月13日	防衛省 防衛監察監
4	副会長	近畿	藤木 崇博	無 (兵庫県柔道連盟会長)	1950年12月8日	
5	専務理事	指名	中里 壮也	(公財)全日本柔道連盟 事務局長	1957年10月17日	
6	常務理事	指名	細川 伸二	天理大学 体育学部教授	1960年1月2日	
7	常務理事	指名	北田 典子	日本大学 スポーツ科学部教授	1966年8月10日	
8	常務理事	中国	吉岡 剛	徳山大学 教授	1956年7月20日	
9	常務理事	指名	野瀬 清喜	埼玉大学 教育学部教授	1952年8月10日	
10	常務理事	東京	松井 勲	(公財)講道館 審議部次長	1956年8月28日	警察大学校 術科教養部長
11	理事	北海道	平間 忠幸	北海道警察学校 術科室長	1957年8月1日	
12	理事	東北	笹木 正信	青森明の星中学高等学校 校長	1948年5月30日	
13	理事	関東	諸井 三義	無 (神奈川県柔道連盟会長)	1947年6月27日	
14	理事	北信越	福島 正俊	更生保護法人徳風苑 補導員	1954年2月17日	
15	理事	四国	高木 謙治	無 (香川県柔道連盟副会長)	1948年4月11日	
16	理事	九州	中島 祥雄	無 (佐賀県柔道協会会長)	1948年4月5日	
17	理事	実柔連	岡泉 茂	新日鐵住金㈱ 人事労政部	1968年4月2日	
18	理事	学柔連	沖永 佳史	帝京大学 理事長・学長	1973年4月9日	
19	理事	高体連	中右 次泰	私立滝川中学・高等学校 教諭	1959年1月5日	
20	理事	中体連	高橋 健司	練馬区立真井中学校 主幹教諭	1959年9月2日	
21	理事	指名	藤原 庸介	流通経済大学 スポーツ健康科学部准教授	1953年6月24日	
22	理事	指名	橋本 聖子	参議院議員	1964年10月5日	
23	理事	指名	田辺 陽子	日本大学法学部 准教授	1966年1月28日	
24	理事	指名	川口 孝夫	川口道場館長	1950年4月13日	広島矯正管区 武道教官
25	理事	指名	大作 晃弘	大作晃弘法律事務所 所長	1956年11月18日	
26	理事	指名	友添 秀則	早稲田大学 スポーツ科学学術院教授	1956年8月14日	
27	理事	指名	火箱 芳文	三菱重工業㈱ 顧問	1951年5月15日	防衛省 陸上幕僚長
28	理事	指名	桐原 弘毅	皇宮警察本部 副本部長	1963年10月14日	皇宮警察本部 副本部長(現職)
29	理事	指名	石井 淳子	三井住友海上火災保険㈱監査役 川崎重工業㈱監査役	1957年11月17日	厚生労働省 社会・養護局長
1	監事		金子 正志	金子正志法律事務所 所長	1954年6月14日	
2	監事		山口 香	筑波大学 体育系教授	1964年12月28日	
3	監事		根本 博史	クリフィックス税理士法人 シニア・アドバイザー	1956年9月2日	

#### 7. 職員に関する事項

職員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	19	0	45.3 歳	6.3 年
女性	17	+4	39.5 歳	4.6 年
合計又は平均	36	+4	42.6 歳	5.5 年

#### 8. 許認可に関する事項

変更なし

以上

## II 事業の状況

### 1. 概要

- (1) 本年度は、6月に評議員、理事・監事の任期満了に伴う改選を行い、山下理事を会長（代表理事）とする新体制を発足した。宗岡前会長の「変えるべきところは変え、変えてはならないことは守り抜く」という考えを踏襲し、2020年の東京オリンピックを目指した「競技面の強化」と、柔道の創始者である嘉納治五郎師範が生涯取り組まれた「人づくり面での強化」の2つの課題の充実化を進め、子供たちが憧れる柔道界を目指した活動を開始した。
- (2) 12月には専門委員会及び特別委員会の見直しを行った。17あった専門委員会及び特別委員会の所管事項の見直しを行い12の専門委員会と1つの特別委員会に再編するとともに、任期を12月31日までに短縮して、1月1日からは新体制での活動を開始した。
- (3) 全国代表者会議は、昨年度までは年2回開催していたが、本年度は幹事会で検討した結果、1回の会議を1泊2日の日程で集中的に議論することとした。
- (4) 財政面では、登録者数が前年度対比で3,596名の減少となり、会費収入は減少した。一方で、補助金、協賛金収入が比較的安定的に維持でき、全般に経費節減に努めた結果、当期経常増減額は約5,900万円の黒字となった。
- (5) 事業面では、定款に定める本連盟の目的を達成するために、専門委員会が中心となって後述のとおりの実業を実施した。

### 2. 会議の開催

#### (1) 評議員会

##### ①第1回（定時）

日 時 平成29年6月23日（金）14:30～16:30

場 所 ホテルグランドアーク半蔵門 3階「華」

決議事項 第1号議案 理事の選任

第2号議案 幹事の選任

第3号議案 平成28年度決算報告書

##### ②第2回（臨時）

日 時 平成29年12月19日（火）14:00～16:00

場 所 学士会館320号室

決議事項 なし

## (2) 理事会

### ①第1回(定時)

日 時 平成29年6月8日(火)

場 所 講道館新館2階「教室」

- 決議事項 第1号議案 平成28年度事業報告書  
第2号議案 平成28年度決算報告書  
第3号議案 評議員選定委員会に推薦する評議員候補者  
第4号議案 平成29、30年度アスリート委員会委員長及び副委員長の選任  
第5号議案 評議員会に推薦する理事及び監事候補者  
第6号議案 公認柔道指導者資格制度規程の改正  
第7号議案 公認柔道指導者資格登録規程の改正  
第8号議案 講道館柔道形競技規定の改正  
第9号議案 全国少年柔道協議会規程の改正  
第10号議案 平成29年度第1回評議員会(定時評議員会)の招集

### ②第2回(臨時)

日 時 平成29年6月23日(金)16時45分～17時10分

場 所 ホテルグランドアーク半蔵門3階「光」

- 決議事項 第1号議案 会長(代表理事)の選定  
第2号議案 副会長、専務理事(業務執行理事)、及び常務理事の選定  
第3号議案 顧問、参与の委嘱

### ③第3回(臨時)

日 時 平成29年10月2日(月)14時00分～16時05分

場 所 講道館新館2階「教室」

- 決議事項 第1号議案 戒告処分無効確認等請求事件への対応  
第2号議案 平成29年度修正予算  
第3号議案 評議員選定委員会運営規則の改正  
第4号議案 役員等の旅費及び業務手当等支給規程 附表の改正  
第5号議案 参与の委嘱  
第6号議案 顧問・参与の就任基準内規の改正  
第7号議案 公認審判員規程の改正

### ④第4回(定時)

日 時 平成29年12月11日(月)14時00分から16時05分

場 所 講道館新館2階「教室」

- 決議事項 第1号議案 評議員会に推薦する理事候補者  
第2号議案 専門委員会の見直し

(1) 専門委員会規程の改正

(2) アスリート委員会規程の改正

(3) 特別委員会の廃止

(4) 特別委員会の設置

第3号議案 常務理事の選任

第4号議案 専門委員会、特別委員会の委員長及び副委員長の選任

第5号議案 平成29年度第2回評議員会（臨時評議員会）の招集

⑤第5回（定時）

日 時 平成30年3月15日（木）16時00分～17時45分

場 所 講道館新館2階「教室」

決議事項 第1号議案 平成30年度事業計画

第2号議案 平成29年度決算見込みおよび平成30年度収支予算

第3号議案 専門委員会規程の改正

第4号議案 役員・関係先等に関する慶弔金規程の改正

第5号議案 専門委員会副委員長の選任

第6号議案 第8回全国代表者会議の招集

(3) 第8回全国代表者会議

日 時 平成30年3月22日（木）～23日（金）

場 所 日本青年館ホテル 会議室

議 題 第1分科会 指導者資格制度について

第2分科会 小学生、中学生、道場・クラブの振興について

第3分科会 高校、大学、社会人の振興について

第4分科会 柔道事故の撲滅、柔道MINDの推進について

### 3. 専門委員会事業報告

#### (1) 総務委員会

##### 【概要】

1. 企画関係事業においては、健全かつ透明性の高い組織運営に努めるため、次年度事業計画書の策定、各規程類の見直し、柔道に関する用語の統一、中学・高校柔道振興会議による中高生の柔道振興施策の検討等を行った。
2. 財政関係事業においては、健全な事業運営と適正な予算執行に努め、次年度収支予算書は各委員長とのヒアリングを実施し策定した。
3. 登録関係事業においては、オンライン登録システムの改善について検討を行った。また、出産育児等により柔道活動が困難な会員のための登録休会制度を新設した。

##### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回（5月25日、9月13日、11月28日、2月21日）
2. 企画部会（中学・高校柔道振興会議） 1回（8月30日）
3. 財政部会（予算ヒアリング） 3回（2月14日、2月15日、2月16日）
4. 登録部会 1回（総務委員会開催日にMTG、メール会議等にて対応）

##### 【事業報告】

#### 1. 企画関係事業

##### (1) 各規程類の見直し

下記の規程類の見直しを行い、改正案を理事会に提案した。

- ①全国少年柔道協議会規程
- ②評議員運営委員会規則
- ③役員等の旅費及び業務手当等支給規程
- ④顧問・参与の就任基準内規
- ⑤専門委員会規程
- ⑥アスリート委員会規程
- ⑦本連盟関係者・関係先等における慶弔金規程

##### (2) 柔道に関する用語の統一

本連盟として公式に発行する文書、発刊物、公式HP等における用語の表記を統一するため、各委員会で専門的に扱う柔道に関する用語を集約し、表記方法のルールを検討した。

##### (3) 中学・高校柔道の振興施策の検討

昨年度に引き続き、中学・高校柔道武道振興会議を開催し、昨年度抽出された4つの議題について検討し課題を整理した。また、その課題について担当ごと



検討を行った。

(4) 各表彰への候補者推薦の透明化

外部団体が行う表彰等について一覧を作成し、候補者（推薦者）を決定する機関を定め、推薦の透明化に努めた。

2. 財政関係事業

(1) 平成28年度事業報告及び決算書の策定を行った。

(2) 平成29年度決算見込及び平成30年度事業計画及び予算書の策定を行った。

予算書策定にあたっては、各委員会（委員長）とのヒアリングを実施し、事業計画に基づいた事業運営と適正な予算執行に努めることを確認した。

(3) 会費、補助金、協賛金等収入の安定的な確保に努め、財政基盤の強化に努めた。

3. 登録関係事業

(1) 登録状況を登録区分別（指導者、社会人、大学生、高校生、中学生、小学生、未就学児）および男女比率にて比較・分析し、現状や問題点について理事会や評議員会、全国代表者会議で報告を行い、登録推進を各都道府県へ依頼した。

平成29年度は、8,727団体、155,367名の個人（指導者・役員29,848名、社会人19,781名、大学生12,876名、高校生22,564名、中学生32,954名、小学生35,613名、未就学児1,731名）の登録があり、全体では前年より151団体、3,596名減少したものの、以下9の都道府県では、登録人数が昨年を上回った。

東京都、滋賀県、京都府、兵庫県、徳島県、高知県、長崎県、熊本県、沖縄県

(2) 出産・育児（介護を含む）等の特別の事情を有する登録会員が、柔道との両立を図ることができる環境づくりを目指し、登録費の特別免除措置として休会員制度を新設した。

(3) 登録手続きオンライン化の精査を行い、管理側とユーザー側の双方にとって利便性の高いシステムを目指し更なる改善を検討した。

以上

## (2) 大会事業委員会

### 【概要】

1. 国際柔道連盟（I J F）主催によるグランドスラム東京や全柔連主催の国内大会において、大会事業委員が中心となって運営に当たり、スムーズな大会運営を行うだけでなく、大会運営基準の全国統一化を推し進めることができた。特にグランドスラム東京は、I J Fから、2014年より5年連続でI J F主催大会中最高レベルの評価を受けることができた。
2. 平成30年度以降の全国大会の日程及び会場の調整を行うと共に、参加資格・競技規則などの整備を行った。また、観客サービスの充実を検討し、国民体育大会ではブダペスト世界柔道選手権大会メダリストによるイベント事業を行い、柔道の普及・発展に努めた。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 5回（5月16日、7月14日、10月20日、12月21日、2月22日）
2. 委員長副委員長会議 2回（12月24日、2月22日）

### 【事業の内容】

#### 1. 国際大会の運営

下記の2大会において、国際柔道連盟等の規則に則った競技運営を行った。

- ①日本ベテランズ国際大会（6月17～18日、白浜町総合体育館）
- ②グランドスラム東京（12月2日～3日、東京体育館）

#### 2. 国内主催大会の運営

下記の18主催大会において、「全柔連大会運営規程」に則った運営及び指導を行い、大会を成功させると共に、国内における大会運営基準統一化をはかった。

また、全柔連主催大会において選手に帯同する指導者は、原則としてAまたはB指導員資格所持者とし、エントリー時に資格の確認ができた指導者のみに大会IDを発行し、大会当日は大会事業委員が指導者の本人確認を徹底して行った。そして、柔道衣検査においても大会事業委員が立会い、選手間の公平性を保った。

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会（4月1日～2日、福岡国際センター）
- ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会（4月9日、東和薬品ラクトブドーム）
- ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月16日、横浜文化体育館）
- ④ 全日本柔道選手権大会（4月29日、日本武道館）
- ⑤ 全国少年柔道大会（5月4日～5日、講道館）
- ⑥ 全日本少年少女武道錬成大会（7月30日、日本武道館）
- ⑦ 全国教員柔道大会（8月5日、講道館）
- ⑧ 全国高等学校定時制通信制柔道大会（8月6日、講道館）

- ⑨ 全国高等学校柔道大会（8月8日～12日、郡山体育館）
- ⑩ 全国小学生学年別柔道大会（8月20日、きたえーる）
- ⑪ 全国中学校柔道大会（8月22日～25日、福岡国際センター）
- ⑫ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月9日～10日、埼玉県立武道館）
- ⑬ マルちゃん杯全日本少年柔道大会（9月24日、東京武道館）
- ⑭ 国民体育大会柔道競技（10月7日～9日、愛媛県武道館）
- ⑮ 全日本柔道形競技大会（10月22日、講道館）
- ⑯ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月11日～12日、千葉ポートアリーナ）
- ⑰ 全国高等学校柔道選手権大会（3月20日～21日、日本武道館）
- ⑱ 近代柔道杯全国中学生柔道大会（3月24日～25日、埼玉県立武道館）

### 3. 委員の派遣

地方で開催される国内大会に委員を派遣し、運営の指導及び補助を行い、大会運営基準の統一化をはかった。また、2019年東京世界柔道選手権大会および2020年東京オリンピックを見据え、委員をブダペスト世界柔道選手権大会に派遣し、IJFとの連携を強化した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会 山岸委員
- ②全日本カデ柔道体重別選手権大会 吉田委員
- ③日本ベテランズ国際柔道大会 佐藤委員、福地委員
- ④ブダペスト世界柔道選手権大会（8月28日～9月3日） 小池委員、福地委員
- ⑤国民体育大会柔道競技 佐藤委員、内海委員、小池委員、山岸委員

### 4. 託児施設の設置

関係者が参加しやすい大会を目指し、スポンサー企業の支援をいただき、下記の大会で託児室を設置した。

- ①全日本選抜柔道体重別選手権大会（協賛 三井住友海上火災保険）
- ②皇后盃全日本女子柔道選手権大会（協賛 了徳寺学園）
- ③講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（協賛 コマツ）

### 5. 国体におけるイベント事業

日本体育協会が推進する国体開催時の競技会場における競技の普及、振興のための「イベント事業」を今年も実施した。ブダペスト世界柔道選手権大会メダリストを派遣し、畳上での技の披露や小学生との乱取の他、握手、サイン会による開催地の方々との交流を通じて普及・発展に努めた。

以上

### (3) 広報委員会

#### 【概要】

2017年（平成29年）度は2019年に迫る世界選手権日本大会、さらには2020東京オリンピック・パラリンピックが現実的な視野に入る時期に入る年であった。従来から取り組んでいる柔道への理解・共感を促進するための一助としての広報誌「まいんど」の発行や柔道フェスタの開催などに加え、よりマスコミを通しての柔道の露出が増えるようメディア対応等の広報業務にもこれまで以上に力を傾注し、メディア側からも大きな評価を得ている。大会での直接的な面では、大会事業課等との協力によって大会速報のWeb化が主要大会で実用化し、会場の観客に利便性を感じて頂いている。

#### 【会議の開催】

1. 全体会議：3回（5月22日、9月21日、2月20日）
2. カレンダー部会：2回（7月25日、9月14日）
3. データベース部会：1回（6月19日）

#### 【事業の内容】

##### 1. 広報関係事業

(1) メディアが感じていた広報の改善点すべき点を実現可能な部分から着手した。

- ① 11月の講道館杯ではこれまで南側でフラットであった記者席を、2017年から北側に移動。前席と後席に段差を付け電源も供給。さらに記者席の背後には記者やカメラマンが使用できる荷物置きを柵を設置。記者席からはミックスゾーンも非常に近くなり記者の動線も大幅改善された。どちらの試みも好評で、これまで寄せられていた不満の多くの部分が解消できた。
- ② 11月17日（金）には、IJFが大きなルール変更をしたことに伴い、その経緯を山下泰裕会長が記者を集めて説明会を開催。また、12月18日には全柔連の広報体制についてのメディアとの意見交換会を開催。その後には懇親会も行って改善して欲しい点などの意見を集めた。
- ③ 8月から9月に掛けて行われたブタペスト世界選手権にメディア対応のため、企画課から初めて人員（桐生）を派遣した。これまでは、ミックスゾーン回りや調整練習の取材の仕切りなどを帯同しているコーチに依頼していた。しかし、今回は広報に専念するスタッフが帯同したためメディアも要望を出しやすい面もあり、現地で取材した記者に従来の世界選手権より多くのことをよりスムーズに提供できた。
- ④ 2月10～11日にフランス・パリで開催されたグランドスラム・パリ大会の視察に企画課から桐生と根本を派遣。大会運営や広報対応を視察が主目的であったが、日本からも有力選手が参加していたため通常の広報対応も行った。また、大

会終了翌日には時間を設けて頂きフランス柔道連盟で広報業務に当たるスタッフと情報交換の場を持った。

(2) 広報誌「まいんど」の発行

- ① 計画通り4回発行した。(11～14号。各号約4万部)  
11号(4月15日発行)特集:地域とつながる柔道  
12号(7月15日発行)特集:生涯 柔道宣言!  
13号(10月15日発行)特集:団体戦を楽しもう  
14号(2018年1月20日発行):合い言葉は「柔道 for All」
- ② 配布先は、全柔連登録団体、スポンサー、(特別)賛助会員、各都道府県柔道連盟(協会)、役員、柔道整復師会等とし、さらに全柔連主催の主要大会会場において配布もした。
- ③ 発行に当たり、柔道に携わる全世代の人が読みやすいものを追求した。
- ④ 制作に当たり、広報委員会の委員だけでなく、すべての専門委員会の情報を盛り込むなど、ご協力と連携をいただきできるだけ有機的に全柔連の活動を広報できるよう努力・工夫した。

(3) 「2018年全柔連カレンダー」の作成

- ① 1、2月=美しい「礼」。3、4月=技。5、6月=男子強化選手  
7、8月=女子強化選手。9、10月=老若男女。11、12月=世界に広がる柔道。  
をテーマに制作
- ② カレンダーの下段に嘉納師範の言葉を入れた
- ③ 前年度はカレンダーの完成が12月下旬となり大きな課題を残したが、今年度は11月中旬の完成。それでも発送等を考えると早い完成とは言えず、さらに改善が必要と思われる。
- ④ 配布先は、全柔連登録団体、スポンサー、(特別)賛助会員、各都道府県柔道連盟(協会)、役員、柔道整復師会等。(約1.2万部)

(4) ホームページやSNSの定期的更新

- ① 柔道に関する情報発信の一つの方法として、HPでの大会情報の更新を柱として、ツイッターやインスタグラムで随時写真等をアップした。

2. 企画関係事業

(1) 記者向け柔道教室の開催

- ① 柔道に関して取材・執筆あるいは映像処理をする報道関係者に、実際に柔道を体験してもらうことでよりリアルで共感を持った報道になることを念頭に企画立案した。

時期: 6月14日(水)

場所: 講道館大道場

講師： 井上康生全日本男子監督・全日本男子強化コーチ・広報委員会委員

(2) 「柔道フェスタ」の開催

- ① 少柔協事務局と連携し、少柔協の「柔道教室」との棲み分けとして、柔道体験を通して柔道の魅力をアピールし、地域における柔道ファンの新規獲得を目的として企画した。
- ② 柔道人口減少を食い止め、少しでも増加を目指すことを目的とする。

時 期： 11月5日(日)

場 所： 新潟県・鳥屋野総合体育館

講 師： 野瀬清喜・穴井隆将・橋本壮市・新井千鶴・半谷静香

参加者： 645名(子供=515名、大人=130名)

3. その他の事業

(1) 主要大会等における報道対応、オフィシャルカメラマン派遣の実施

- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会(4月1～2日、福岡国際センター)
- ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会(4月9日、東和薬品ラクタブドーム)
- ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会(4月16日、横浜文化体育館)
- ④ 全日本柔道選手権大会(4月29日、日本武道館)
- ⑤ ブタペスト世界選手権メダリスト帰国会見(9月4日、成田空港)
- ⑥ 全日本ジュニア体重別選手権大会(9月9～10日、埼玉県立武道館)
- ⑦ マルちゃん杯全日本少年柔道大会(9月24日、東京武道館)
- ⑧ 講道館杯全日本体重別選手権大会(11月11～12日、千葉ポートアリーナ)
- ⑨ グランドスラム東京(12月2～3日、東京体育館)
- ⑩ 着物着付け教室(12月2～3日、東京体育館)
- ⑫ モンゴル外務大臣来館(2月21日、講道館)

その他随時、国際大会に派遣される選手団の空港取材対応、男女の強化合宿公開取材日の取材対応を行った。

以上

#### (4) 教育普及・MIND委員会

##### 【概要】

平成30年1月委員会の改編により二委員会（教育普及・指導者養成）と三特別委員会（柔道MIND・形・視柔連連携）を部会とし、新設した知的障がい者部会を加え、6部会からなる新たな教育普及・MIND委員会を発足した。これらの改革は旧委員会内の重複業務を解消し、委員を半減させて会議・活動の活性化を図るためである。新委員会活動の成果は各部の部会長会議により他部会の業務内容や進捗状況を把握し、教育関係の事業を適切に結合し相乗効果を生む戦略が出来たことにある。

平成29年度の活動の成果及び会議等は部会ごとの事業報告書に譲ることとし、本報告書では1月以降の新委員会の活動報告及び29年度柔道MINDプロジェクト部会の活動報告とする。

##### 【会議の開催】

1. 部会長会議 1回（平成30年1月22日）

##### 【事業の内容】

平成30年1月22日（月）15:00～17:00 全柔連503会議室

1. 各部会の活動内容、今後の課題の共有、活動等について検討を行なった。
2. 教育普及部会新規業務、全柔連主要大会でのイベント、柔道フェスタ等を含め業務内容の確認を行った。
3. 柔道MIND・柔道フォーオールの浸透について審議した。
4. 指導者養成部会中央委員会の規定、委員選考方法及び大学生の資格取得について審議した。
5. 形部会の強化日程、資格審査等について説明があり、形の振興策について審議した。
6. 視柔連連携部会より審判資格の取得等の課題と大会、強化日程について報告があった。
7. 知的障がい者部会より大会出場のための関連連盟への加盟手続き、国内大会の設立に関する説明があった。
8. 各部会の重複業務について確認し、業務の効率化について共有した。

#### (3) - 1 柔道MINDプロジェクト部会

##### 【概要】

1. 本部会の前身は柔道MINDプロジェクト委員会であり、平成26年度5月2日に第1回会議が開催された。平成24年度・25年度柔道界では、暴力問題を発端に様々な不祥事が発覚し柔道に対する信頼が失墜した。このような事態を打開し柔道の信頼や価値を回復するために設立されたのが本委員会であった。
2. 事業内容は、暴力根絶推進、正しい礼法の徹底、試合場での立ち居振る舞い、柔道パス

ポートの作成、安全指導、イラスト、標語、ポスターの作成など多岐にわたった。また、都道府県柔道連盟（協会）からご協力をいただき、MIND（礼節・自立・高潔・品格）活動を推進してきた。多くの都道府県では現在もMIND活動を推進している。

3. 平成 28 年度は本委員会は開催されなかったが、委員会の改編で柔道MIND活動の重要性が再確認され、柔道フォーオールの推進と共にさらにプロジェクトを活性化していくのが本部会の使命である。

#### 【会議の開催】

1. 部会 1回（平成 30 年 2 月 22 日）

#### 【事業の内容】

平成 30 年 2 月 22 日（木）14:00～16:30 全柔連 503 会議室

1. 本部会の活動方針の見直し、事業の理念や目的、達成目標を再確認する。
2. 平成 30 年度中に全国に配布するMIND・柔道フォーオールのポスターを作成する。
3. 平成 30 年度中に選手、指導者、保護者対象のマナー啓発冊子の原案を作成する。
4. 都道府県連盟（協会）のMIND活動推進状況を調査する。
5. 他部会、他委員会と重複する業務の再確認を行い業務分担の整理と調整を行う。
6. 以上の業務を平成 30 年度の中核とし、部会、委員会との連携を図る。

### （3）－ 2 教育普及部会

#### 【概要】

1. 柔道の指導の在り方、普及の現状などについて協議検討し共通理解を深めるとともに、中学生以上を対象とした「柔道教室」の開催及び日本武道協議会との共催事業である地域社会柔道指導者研修会及び地方青少年柔道錬成大会への講師の派遣を行い、正しい柔道と安心安全な柔道の普及を図った。
2. 「柔道教室」等への派遣する講師の資質向上を図るため「派遣講師研修会」を実施し、正しい柔道と安心安全な柔道の普及のために必要な指導法の在り方が検討された。
3. 次世代を担う小中校生たちに対し、柔道のすばらしさ、柔道の精神を伝えていくために、柔道教育現場の実態調査を行うほか、柔道未経験者に対する柔道体験の機会を提供しているキッズ柔道に対して支援を行い、今後の日本柔道の普及・発展に繋げていく活動を行った。

#### 【会議の開催】

1. 全体会議 2回（6月9日、10月30日）
2. 委員長・副委員長会議 2回（4月30日、9月23日）
3. 派遣講師検討小委員会 1回（2月26日）



#### 4. 3/24 開催の派遣講師研修会の打ち合わせを行なった。(3月15日)

##### 【事業の内容】

##### 1. 派遣講師研修会の開催

中高生以上を対象に実施している全日本柔道連盟の「柔道教室」等に派遣される講師を対象に、正しい柔道と安心安全な柔道の普及のために必要な指導法の在り方を考える「派遣講師研修会」を開催しました。

平成28年度までは年1回の開催であったが、平成29年度からは2回開催した。これは、研修会のために地方からの参加が困難な方が多いため、開催場所を増やし、少しでも多くの方に研修会に参加してもらうことが目的である。

- ① 派遣講師研修会(12月16日、大阪 講道館大阪国際柔道センター)26名参加
- ② 派遣講師研修会(3月24日、東京 講道館)28名参加

##### 2. キッズ柔道支援

柔道未経験者に対する柔道体験の機会を提供しているキッズ柔道に対して教育普及委員会からは、主に講師・指導者の交通費や日当、貸し出し用の柔道衣の運搬費用として支援を行っている。

- ① 日本女子柔道倶楽部(10月15日、横須賀)
- ② 日本女子柔道倶楽部(11月19日、宮城)
- ③ 日本女子柔道倶楽部(12月9日、飯山満)

##### 3. 柔道教育現場の実態調査

- (1) 高等学校での柔道授業・部活動等の実態を解明するために、昨年度の全国高等学校柔道選手権大会にて、各都道府県の高体連柔道専門部委員長に高校の柔道指導者を対象としたアンケート調査を依頼し、その後各都道府県においてアンケート調査が実施された。(平成29年度中)
- (2) KOBE 自他共栄 CUP カナダ・神戸御影柔道国際交流の視察(3月10日～11日、神戸) 今後の教育普及活動の在り方の検討材料とするために、同大会及び交流事業を視察した。
- (3) 地方青少年柔道錬成大会(日本武道協議会と共催)の視察(12月9日～10日、宮崎市) 錬成大会における派遣講師の指導状況と被指導者の教養効果を把握するために、視察員を派遣した。

##### 4. 柔道教室の開催

中学生以上を対象に柔道の正しい普及のために、指導のあり方を現地指導者と共に考え、知識、技術の共有化を図るとともに、基本から応用まで参加者の技能レベルに応じた技術講習等を行った。

全国12ヶ所に、講師各3名を派遣して実施した。(スポーツ振興くじ助成事業)

- ① 兵庫県(5月20日、甲南大学柔道場)

- ② 福井県（7月1日、福井県立武道館）
- ③ 千葉県（8月5日、千葉県総合スポーツセンター）
- ④ 長野県（9月16日、小諸武道館）
- ⑤ 新潟県（10月29日、新津武道館）
- ⑥ 秋田県（11月4日、秋田県立武道館）
- ⑦ 東京都（11月5日、講道館）
- ⑧ 香川県（11月12日、香川県立武道館）
- ⑨ 青森県（11月11日、八戸市武道館）
- ⑩ 山口県（12月26日、岩国市総合体育館）
- ⑪ 石川県（1月6日～7日、国立能登青少年交流の家）
- ⑫ 山形県（2月11日、山形市総合スポーツセンター）

5. 地域社会柔道指導者研修会（日本武道協議会と共催）への講師派遣

- ① 山口県（6月15日～16日、維新百年記念公園スポーツ文化センター）2名
- ② 兵庫県（8月2日～4日、兵庫県立総合体育館）2名
- ③ 島根県（10月28日～29日、島根県立武道館）2名
- ④ 鳥取県（11月4日～5日、鳥取市武道館）2名
- ⑤ 岡山県（2月17日～18日、岡山武道館）3名

6. 地方青少年柔道錬成大会（日本武道協議会と共催）への講師派遣

- ① 沖縄県（5月13日～14日）3名
- ② 石川県（7月25日～27日）2名
- ③ 山口県（8月23日～25日）2名
- ④ 茨城県（9月9日～10日）2名
- ⑤ 和歌山県（9月9日～10日）3名
- ⑥ 島根県（9月23日～24日）3名
- ⑦ 福井県（10月28日～29日）2名
- ⑧ 宮崎県（12月9日～10日）3名
- ⑨ 青森県（1月13日～14日）2名

### （3）－3 指導者養成部会

#### 【概要】

1. 「人間力」をそなえた指導者の養成。常に子供たち（選手）を最優先し科学的知識を活かし柔道を安全に楽しく正しく指導出来る。そして学び続けることのできる指導者を養成する事を目的として A・B・C・準指導員養成および更新講習会を実施した。
2. 新たなカリキュラム、ならびに多様な講習会受講形態の開発を検討した。さらに IJF やスポーツ庁委託事業、他競技団体等との連携協力体制を整えた。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 2回（4月11日、12月21日）
2. 指導者資格制度WG会議 4回（5月9日、7月3日、9月19日、12月17日）
3. 中央審査委員会会議 メール会議6回

### 【事業の内容】

1. 指導者資格制度及び新たなカリキュラムそして公認柔道指導者資格制度規程の検討を行なった。
2. B、C講習会運営費負担案（赤字について全柔連9：都道府県連盟1）について検討した上で、理事会に提案した。
3. 各種講習会等を以下のとおり実施した。
  - (1) 指導者養成委員会および指導者資格制度WG
    - ①全国公認柔道指導者資格研修会（期日：5月27、28日、場所：TKP 田町カンファレンスセンター）
    - ②A 指導者養成講習会  
（東日本）（8月23日～27日、場所：NTC）  
（東北地区）（8月4日～6日、9月16日～17日、場所：秋田大学）  
（西日本）（11月24日～26日、2月17日～18日、場所：福岡武道館、福岡県立修猷館高等学校）
    - ③強化委員会CおよびB指導員養成講習会（12月20日、21日、場所：NTC）
    - ④都道府県指導者養成講習会モニタリング（9月～12月、栃木、鳥取、愛知、石川、長崎県）
    - ⑤都道府県指導者養成講習会への講師派遣（9月～2月、沖縄、宮崎、和歌山、神奈川、山形、神奈川県）
    - ⑥都道府県開催 C指導員養成講習会（44都道府県・47件（青森・島根・山口2回））
    - ⑦都道府県開催 B指導員養成講習会（41都道府県・42件（青森2回））
    - ⑧都道府県開催 準指導員養成講習会（27都道府県・29件（島根・山口2回））
  - (2) コーチ・教育交流WG
    - ①天理フランス柔道指導者講習会・指導法交流会（4月22、23日、場所：天理大学）
    - ②IJFアカデミー視察（6月4～11日、場所：ハンガリー）
    - ③日本水泳連盟指導者資格についてのヒアリング（6月29日、場所：岸記念体育館）
  - (3) 中学校武道必修化WG（日本武道館と共催）
    - ①中学校武道授業（柔道）指導法研究事業（6月16～18日、講道館）
    - ②全国中学校（教科）柔道指導者研修会（11月3～5日、日本武道館勝浦研修センター）
  - (4) スポーツ庁委託事業
    - ①全国コーディネーター連絡会議（12月10日、大手町サンスカイルーム）

(5) 研修会・講習会以外

- ①全柔連エンブレムの作成
- ②指導者資格ワッペンの作成 (ABC)
- ③スポーツ庁委託事業成果物として「柔道指導者のサイエンス」を発刊

(3) - 4 形部会

【概要】

1. 全日本柔道形競技大会の結果と過去の成績及び全日本柔道形競技大会の各地区予選における優秀組も加えて強化組及び指定組の選出を行った。
2. 強化組を対象とした、世界及びアジア形選手権大会の日本代表組選考会を行った。
3. 強化組及び指定組を対象とした全体合宿を2回行った。また世界形選手権大会代表組を対象とした代表合宿と各形個別分散合宿をそれぞれ1回ずつ行った。
4. 世界形およびアジア形選手権大会へ役員並びに選手団を派遣した。
5. 平成24年度より発足した、公認形審査員資格制度をより活性化するために試験4回と研修会2回を開催した。
6. 国際柔道連盟 (IJF) 及びアジア柔道連盟 (JUA) と形選手権大会運営や審査基準について協議をした。

【会議の開催】

1. 形部会 4回 (5月14日、9月17日、10月22日、1月20日)

【事業の内容】

1. 審査部門

(1) 国際大会への役員、審査員派遣

平成29年10月6日、7日にイタリア・サルディーニャ島で開催された形グランドスラムおよび第9回世界形選手権大会に審査員及び役員を派遣し、情報の収集を行うとともに、よりよい形の普及発展のためIJF役員及び形委員等と協議をした。

また、平成29年11月26日にタイで開催されたアジア形選手権大会に役員を派遣した。アジア形選手権大会に先立ち行われたJUA形審査員セミナー及び試験に受験者2名を派遣し、2名とも合格した。

(2) 公認形審査員制度

公認形審査員制度に関して、審査員試験を4回と研修会を2回開催した。

公認形審査員資格保有者数 (平成29年度末現在)

投の形 142名、固の形 101名、極の形 104名、柔の形 126名、  
講道館護身術 129名、五の形 107名、古式の形 100名

## 2. 強化普及部門

### (1) 強化組及び指定組の選考

世界形選手権大会で優勝できるレベルの組を「強化A組」、それに準ずる組を「強化B組」、今後の育成を目指す組を「指定組」とし選出を行った。

### (2) 合宿

各形の強化及び層を厚くするために強化組及び指定組を対象とした全体合宿を以下の日程で行った。

第1回全体合宿：平成29年5月12日～5月14日（味の素ナショナルトレーニングセンター）

第2回全体合宿：平成30年1月19日～1月20日（味の素ナショナルトレーニングセンター）

世界形選手権大会代表組選出後は、代表組のみを対象とした個別分散合宿及び全体合宿を行い、大会に向けて準備をした。

### (3) 選手団派遣

平成29年10月6日、7日にイタリア・サルディーニャ島で開催された形グランドスラムおよび第9回世界形選手権大会に各形1組を派遣し、投の形、固の形、柔の形、講道館護身術が優勝し、極の形が2位だった。また平成29年11月26日にタイで開催されたアジア形選手権大会に3組派遣し、極の形と講道館護身術が優勝、固の形は2位だった。今後も引き続き強化を行い、各形の競技力向上を目指していく。

## (3) - 5 視覚障がい者柔道連携部会

### 【概要】

2020年東京パラリンピックへの出場を目指す候補選手の国際大会での活躍を導き、東京パラリンピック成功へと繋ぐことを目的として、全日本柔道連盟の資源（組織力、人材力など）を活用し、日本視覚障害者柔道連盟が主体となって展開する選手強化等への支援を実施した。さらに、視覚障害者柔道の安定した競技環境の維持を図るための諸事業・活動などへの協力を行った。

### 【会議の開催】

1. 連携特別委員会 2回（5月9日、10月24日）
2. 視覚障がい者柔道連携部会 1回（2月19日）

### 【事業の内容】

1. 選手強化支援
  - (1) 視柔連が実施した男子・女子強化合宿のうち8回（7/14-17、7/20-25、7/31-8/11、

9/15-18、11/3、11/2-5、12/22-24、2/10-12) に、練習相手として大正大学等の学生選手を派遣した。また、これら強化合宿への助成を行った。

(2) 10月9日、10日にウズベキスタン・タシケントで行われた IBSA ワールドカップ では半谷静香 (女子 48 kg級)、小川和紗 (女子 63 kg級) 及び北園新光 (男子 81 kg級) が銅メダルを獲得することができた。また、海外からの選手を招待して 11 月 26 日に行われた全日本視覚障害者柔道大会では、廣瀬順子 (女子 57 kg級) が韓国選手に競り勝ち、優勝することができたが、男子の全階級で海外選手に敗退した。これらの結果を踏まえて今後の強化支援を行うこととした。

## 2. 視覚障がい者柔道の啓発活動及び選手発掘への支援

(1) 全国高体連等の組織の協力を得て、全国大会などでの選手発掘のための啓発活動を実施した。具体的には、参加・出場校へパンフレットの配布を行うほか、監督会議などで情報提供を呼びかける等、積極的に展開した。

## 3. 審判員の養成支援

(1) 審判委員会によって養成された審判員が国内主要大会での審判を行っている。また、IBSAJUDO 審判員の養成に向けても積極的に支援を行っている。

## 4. 環境の整備

(1) 視覚障害者柔道が、東京パラリンピック後においても安定した競技環境を維持できるように、現場のニーズを把握しながら練習場所、練習相手の確保を図る方策など協力体制の在り方について検討した。

## (3) - 6 知的障がい者柔道振興部会 (平成30年1月～3月)

### 【概要】

平成 30 年 1 月に新設された知的障がい者柔道振興部会では、第 2 回世界大会 (平成 31 年) の選手出場資格となることが予想される国際知的障がい者スポーツ連盟 (INAS) への登録準備、国内知的障がい者柔道実施者の活動調査、知的障がい者柔道普及振興活動を行った。

### 【会議の開催】

1. 部会 1 回 (平成 30 年 2 月 28 日)

### 【事業の内容】

1. 国際知的障がい者スポーツ連盟 (INAS) への加盟部会の法人化を検討するため、行政司法法人へ相談。今後、部会の法人化はせず、知的障がい者柔道振興部会として INAS の日本の窓口である (一社) 全日本知的障がい者スポーツ協会への加盟登録を検討する。
2. 普及・振興活動

(1) 千葉県松戸南高等学校 (平成 30 年 3 月 31 日)

派遣者 2 名

参加者 18 名 (教員 5 名・知的障がい者 5 名 保護者 6 名 その他 2 名)

以上

## (5) 審判委員会

### 【概要】

1. 審判員養成事業としては、Aライセンス審判員試験を5ヶ所で実施した他、Sライセンス審判員や顧問審判員の審査、認定を行なった。また、平成30年度より開始する新たなSライセンス審判員の選考方法を策定し、Sライセンス審判員候補者27名が決定した。
2. 審判員技能向上事業としては、Aライセンス審判員研修会をはじめとする講習会を12回実施した他、都道府県柔道連盟から要請のあった講習会に対し、本委員会より講師を派遣し、全柔連主催の講習会と統一した内容の講義を行った。また、国際柔道連盟(IJF)が2018年1月に改正した試合審判規定については、2018年1月のIJF審判・コーチセミナーに審判委員会委員を派遣し、情報収集を行い、2月に開催した国内トップの審判員を集めた審判員強化研修会の中で解釈を統一し、その後の研修会・講習会での周知を図った。今回改正された審判規定を4月より国内大会で適用すると共に団体戦への導入や少年大会への適用方法を取りまとめた。
3. 審判員選考においては、主要大会におけるAライセンス審判員の技能を審査し、全日本選手権、国体をはじめとする各大会の審判員選考を行なった。
4. 国際審判員の派遣事業においては、IJF等から指名のあった大会を中心に審判員を派遣するとともに、帯同審判員として5名を6大会に派遣した。IJF・JUA審判員試験には計4名を派遣し、全員が合格した。
5. 公認審判員規程について、休会員の審判員資格に関する部分を追加する改正を行った。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回(5月22日、9月25日、12月6日、2月3日)
2. 委員長副委員長会議 4回(5月22日、9月25日、12月6日、2月3日)
3. 選考審査部会 4回(5月26日、7月13日、12月20日、2月27日)

### 【事業の内容】

1. 審判員研修会及び講習会を以下のとおり実施し、審判員の技術向上に努めた。  
また、2018年2月以降は、1月に改正されたIJF試合審判規定の周知を行った。
  - ① Aライセンス審判員研修会(3月3日、講道館)
  - ② Aライセンス審判員研修会(2月17日、講道館大阪国際柔道センター)
  - ③ 地方審判員講習会(5月14日、北ガス文化ホール)
  - ④ 地方審判員講習会(10月22日、さきがけホール)
  - ⑤ 地方審判員講習会(6月11日、山梨学院大学)
  - ⑥ 地方審判員講習会(4月22日、石川県立武道館)
  - ⑦ 地方審判員講習会(3月18日、岐阜県水産会館)



- ⑧ 地方審判員講習会（5月17日、県総合体育センター武道館）
  - ⑨ 大会前日審判員講習会（8月7日、ミューカルがくと館大ホール）
  - ⑩ 大会前日審判員講習会（10月6日、愛媛県武道館）
  - ⑪ Aライセンス審判員試験前日講習会（7月1日、九州産業大学）
  - ⑫ Aライセンス審判員試験前日講習会（7月8日、埼玉県立スポーツ総合センター）
  - ⑬ Aライセンス審判員試験前日講習会（7月8日、愛知県武道館）
  - ⑭ Aライセンス審判員試験前日講習会（7月8日、兵庫県立武道館）
  - ⑮ Aライセンス審判員試験前日講習会（7月8日、広島県立総合体育館）
  - ⑯ 審判員強化研修会（2月4日、講道館）
2. Aライセンス審判員試験を以下のとおり実施し、118名が受験し、106名が合格した。
- ① Aライセンス審判員試験（7月1日～2日、福岡県武道館）
  - ② Aライセンス審判員試験（7月8日～9日、埼玉県立武道館）
  - ③ Aライセンス審判員試験（7月8日～9日、愛知県武道館）
  - ④ Aライセンス審判員試験（7月8日～9日、兵庫県立武道館）
  - ⑤ Aライセンス審判員試験（7月8日～9日、広島県立総合体育館）
3. 下記大会へ審判委員を派遣し、ケアシステムを用いて試合の円滑な運営に努めた。
- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会（4月1日～2日、福岡国際センター）
  - ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会（4月9日、東和薬品ラクタブドーム）
  - ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月16日、横浜文化体育館）
  - ④ 全日本柔道選手権大会（4月29日、日本武道館）
  - ⑤ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月9日～10日、埼玉県立武道館）
  - ⑥ 国民体育大会柔道競技（10月7日～9日、愛媛県武道館）
  - ⑦ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月11日～12日、千葉ポートアリーナ）
4. 下記大会へ選考審査部会員を派遣し、国内大会の審判員選考をはじめ、国際大会派遣審判員、Sライセンス審判員等の選考のための審判員技量の審査を行った。また、Sライセンス審判員は、1年間の審判技能を総合的に審査し、1名を年齢超過のため認定解除とし、合計27名となった。
- ① 全日本選抜柔道体重別選手権大会（4月1日～2日、福岡国際センター）
  - ② 全日本カデ柔道体重別選手権大会（4月9日、東和薬品ラクタブドーム）
  - ③ 皇后盃全日本女子柔道選手権大会（4月16日、横浜文化体育館）
  - ④ 全日本柔道選手権大会（4月29日、日本武道館）
  - ⑤ 全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月9日～10日、埼玉県立武道館）
  - ⑥ 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（11月11日～12日、千葉ポートアリーナ）
5. 下記の大会に審判員を派遣し、国際大会で活躍できる審判員の養成に努めた。また、インターナショナル審判員試験に2名、コンチネンタル審判員試験に2名を派遣し、全員が合格した。

(指名審判員)

- ① グランプリアンタルヤ 岡田弘隆 (4月7日～9日、トルコ)
- ② グランドスラムエカテリンブルグ 岡田弘隆 (5月19日～21日、ロシア)
- ③ アジア選手権 天野安喜子 (5月26日～28日、香港)
- ④ グランプリカンクン 岡田弘隆 (6月16日～18日、メキシコ)
- ⑤ グランプリフフホト 天野安喜子 (6月30日～7月2日、中国)
- ⑥ ユニバーシアード 高橋進 (8月20日～24日、台湾)
- ⑦ 世界選手権 天野安喜子 (8月28日～9月3日、ハンガリー)
- ⑧ グランプリタシケント 岡田保彦 (10月6日～8日、ウズベキスタン)
- ⑨ 世界ジュニア選手権 岡田保彦 (10月18日～22日、クロアチア)
- ⑩ グランドスラムアブダビ 岡田保彦 (10月26日～28日、アブダビ)
- ⑪ 世界無差別選手権 天野安喜子 (11月11日～12日、モロッコ)
- ⑫ グランプリハーグ 岡田保彦 (11月17日～19日、オランダ)
- ⑬ グランドスラム東京 天野安喜子 岡田保彦 (12月2日～3日、日本)
- ⑭ ワールドマスターズ 天野安喜子 (12月16日～17日、ロシア)
- ⑮ グランドスラムパリ 天野安喜子 (2月10日～11日、フランス)
- ⑯ グランドスラムデュッセルドルフ 岡田保彦 (2月23日～25日、ドイツ)
- ⑰ グランドスラムエカテリンブルグ 天野安喜子 (3月17日～18日、ロシア)
- ⑱ グランプリトビリシ 天野安喜子 (3月30日～4月1日、ジョージア)

(帯同審判員)

- ① アジアジュニアアカデ選手権 樽谷哲子、武田淳子 (7月29日～30日、マカオ)
- ② ヨーロッパオープンオディヴェーラス 樽谷哲子 (2月3日～4日、ポルトガル)
- ③ ベルギー国際 武田淳子 (2月3日～4日、ベルギー)
- ④ ヨーロッパオープンローマ 瀬尾麻世 (2月17日～18日、イタリア)
- ⑤ プレーメン国際 松本勇治 (3月24日～25日、ドイツ)
- ⑥ チューリンゲン国際 小志田憲一 (3月24日、ドイツ)

(インターナショナル審判員試験)

- ① アジアオープン香港 小志田憲一 樽谷哲子 (12月9日～10日、香港)

(コンチネンタル審判員試験)

- ① チェジュカップ 松本勇治 濱岡睦月 (12月18日～21日、韓国)

6. 審判教材の作成

2018年1月に改正されたI J F試合審判規定の和訳冊子を平成30年度に発行するため、編集作業を行った。

7. Sライセンス審判員選考

Sライセンス審判員選考に関する内規を作成し、各地区からSライセンス審判員候補

者を選出し、平成 30 年から 31 年の 2 年間で候補者と現行の S ライセンス審判員を審査し、平成 32 年に認定することとした。

8. 国内における「少年大会特別規定」の改正

相手の両袖を持って施技することにより、投げられた試合者は腕による受身がとりにくい体勢で、顔面及び頭頂部から畳に落下する恐れがあり、危険性を伴うことから、全柔連主催の少年大会（中学生以下）においては、「両袖を持って施す投げ技」を禁止とし、施した場合には「反則負け」とすることを検討し、理事会に提案した。

9. 公認審判員規定の改正

休会員の審判員資格について検討し、理事会に提案した。

以上

## (6) 強化委員会

### 【概要】

#### 1. 選手強化事業（シニア）

平成 29 年度の最大目標は 8 月末にハンガリー・ブダペストで開催された世界選手権大会に男女合わせて金メダル 7 個以上獲得することであった。これに向けた国内外での合宿を中心に強化を行った。また、2020 年東京オリンピックで初めて採用されることとなった男女混合団体戦が今大会でも実施されるため、国内合宿では男女選手を一堂に会し、チームビルディングを行い、チームが一体となれるよう準備を進めた。結果としては男子で金 4、女子で金 3 銀 4 銅 1 を獲得し、当初の目標は達成できた。団体戦においても日本チームが初代チャンピオンに輝いた。

2011 年以来 6 年ぶりに開催された世界無差別選手権大会には男女計 3 名の選手を派遣し、金 1 銅 1 を獲得した。

後期の国内合宿では稽古、トレーニングの他、各種講義を行い、強化選手に対する競技力向上だけでなく人間力の向上を目的とした内容で実施した。

昨年度改正した強化システムに関する内規により、2017 世界選手権大会とグランドスラム東京 2017 を連勝した選手を 2018 世界選手権大会代表選手として内定することとなっており、今回、60 kg 級で高藤直寿選手、66 kg 級で阿部一二三選手が条件を満たし、内定した。この制度については、2018 世界選手権大会の結果を受けて検証していくこととしている。

#### 2. 選手強化事業（ジュニア）

ジュニア世代の育成、強化としては、世界ジュニア選手権大会、世界カデ選手権大会（共に目標金メダル 7 個以上）に向けた国内外での合宿や国際経験をさせるための国際大会派遣において強化を図った。代表は 2024 年パリオリンピックを見据えた選手を派遣し、結果としては世界ジュニア選手権大会で金 8 銀 2 銅 4 を獲得、混合団体戦優勝、世界カデ選手権大会では金 3 銀 2 銅 7 を獲得、混合団体戦 3 位であった。

また、今年度も全国 5 ヶ所において中学生、高校生を対象にジュニアブロック合宿を実施し、強化選手と都道府県推薦選手が合同練習を行うことで意識向上を図った。ここでは稽古による技術、体力面の強化だけでなく、各種講義も実施し、柔道以外の知識や情報共有を図った。

#### 3. 選手強化・育成事業（小学生）

タレント発掘と育成を目的とした全国少年競技者育成事業を今年度も 10 地区において実施した。また、全国小学生学年別大会上位選手を招集した強化教育合宿、10 地区からの推薦選手、指導者を一堂に会して競技者育成合宿を中央において実施した。これらの合宿では柔道の歴史や栄養学等、柔道の技術向上だけでなく、少年期から競技力と人間力を兼ね備えた選手育成を目的とした内容を実施した。

### 【会議の開催】

1. 男女合同強化委員会 4回（4月2日、6月24日、7月26日、3月17日）
2. 男子強化委員会 5回（4月2日、4月29日、9月10日、11月12日、12月3日）
3. 女子強化委員会 5回（4月2日、4月16日、9月10日、11月12日、12月3日）

### 【事業の内容】

#### 1. 選手強化事業（JOC 補助事業他）

##### （1）国際大会派遣（28件）

ア. 東アジア選手権大会（5月3日～9日、中華人民共和国）

イ. GS エカテリンブルグ（5月14日～23日、ロシア）

ウ. アジア選手権大会（5月22日～29日、香港）

金メダル 8個（高藤直寿、藤原崇太郎、志々目愛、芳田司、鍋倉那美、大野陽子、濱田尚里、稲森奈見）

銀メダル 1個（七戸龍）

銅メダル 3個（藤阪太郎、立川新、向翔一郎）

男子団体戦3位／女子団体戦優勝

エ. GP フフホト（6月27日～7月3日、中華人民共和国）

オ. 第29回ユニバーシアード競技大会（2017／台北）柔道競技

（7月20日～24日、チャイニーズタイペイ）

金メダル 8個（藤阪泰恒、立川新、影浦心、太田彪雅、梅北眞衣、立川莉奈、能智亜衣美、井上あかり）

銀メダル 2個（飯田健太郎、新添左季）

銅メダル 4個（磯田範仁、向翔一郎、村井惟衣、井上舞子）

男子団体戦優勝／女子団体戦優勝

カ. 世界選手権大会（8月21日～9月5日、ハンガリー）

金メダル 7個（高藤直寿、阿部一二三、橋本壮市、ウルフアロン、渡名喜風南、志々目愛、新井千鶴）

銀メダル 4個（角田夏実、芳田司、梅木真美、朝比奈沙羅）

銅メダル 1個（近藤亜美）

男女混合団体戦優勝

キ. GP ザグレブ（9月24日～10月3日、クロアチア）

ク. 世界無差別選手権大会（11月6日～15日、モロッコ）

金メダル 1個（朝比奈沙羅）

銅メダル 1個（王子谷剛志）

ケ. ワールドマスターズ（12月11日～19日、ロシア）

コ. GP チュニス（1月14日～23日、チュニジア）

- サ. E0 オディヴェーラス (1月30日～2月9日、ポルトガル)
- シ. GS パリ (2月6日～15日、フランス)
- ス. E0 オーバーヴァルト (2月13日～23日、オーストリア)
- セ. E0 ローマ (2月13日～20日、イタリア)
- ソ. GS デュッセルドルフ (2月19日～3月2日、ドイツ)
- タ. E0 プラハ (3月1日～12日、チェコ)
- チ. GS エカテリンブルグ 2018 (3月12日～20日、ロシア)
- ツ. ロシアジュニア国際大会 (4月11日～20日、サンクトペテルブルグ)
- テ. ポーランドカデ国際大会 (5月16日～23日、ビエルスコ・ピアラ)
- ト. オーストリアジュニア国際大会 (5月31日～6月8日、ライプニッツ)
- ナ. アジアカデ・ジュニア選手権大会 (7月11日～18日、キルギス)
- ニ. 世界カデ選手権大会 (8月5日～15日、チリ)
  - 金メダル 3個 (桂嵐斗、川端悠、結城彩乃)
  - 銀メダル 2個 (中橋大貴、森健心)
  - 銅メダル 7個 (鷲見仁義、近藤隼斗、渡邊愛子、小林未奈、中矢遥香、松本りづ、米川明穂)

男女混合団体戦3位

- ヌ. 嘉納治五郎記念日露ジュニア交流大会 (9月3日～8日、ウラジオストク)
- ネ. 東アジアカデ選手権大会 (9月21日～25日、チャイニーズタイペイ)
- ノ. 世界ジュニア選手権大会 (10月13日～24日、クロアチア)
  - 金メダル 8個 (杉本大虎、田嶋剛希、久保井仁菜、阿部詩、舟久保遥香、荒木穂乃佳、梅津志悠、素根輝)
  - 銀メダル 2個 (前田千島、児玉ひかる)
  - 銅メダル 4個 (古賀玄暉、長井晃志、山口貴也、香川大吾)

男女混合団体戦優勝

- ハ. ベルギー国際大会 (1月31日～2月8日、エルスタル)
- ヒ. ブレーメン国際大会 (3月21日～30日、ドイツ)
- フ. チューリンゲン国際大会 (3月21日～28日、ドイツ)

(2) 国内合宿 (36件)

- ア. 第1回男子合宿 (4月16日～21日、東海大学他)
- イ. 第2回男子合宿 (5月1日～6日、警視庁・NTC)
- ウ. 第3回男子合宿 (6月12日～21日、講道館)
- エ. 第4回男子合宿 (7月29日～8月3日、延岡市)
- オ. 第5回男子合宿 (8月13日～18日、NTC)
- カ. 第6回男子合宿 (11月29日～12月7日、講道館)
- キ. 第7回男子合宿 (12月21日～24日、NTC)

- ク. 第8回男子合宿（1月8日～12日、NTC）
  - ケ. 男子個別分散合宿（4月～3月、各地で27回実施）
  - コ. 第1回女子合宿（4月10日～14日、NTC）
  - サ. 第2回女子合宿（5月1日～6日、NTC・自衛隊体育学校）
  - シ. 第3回女子合宿（6月12日～21日、講道館）
  - ス. 第4回女子合宿（8月1日～5日、NTC）
  - セ. 第5回女子合宿（8月16日～20日、帝京大学）
  - ソ. 第6回女子合宿（11月28日～12月7日、講道館・NTC）
  - タ. 第7回女子合宿（1月6日～12日、NTC他）
  - チ. 女子個別分散合宿（7月～1月、各地で11回実施）
  - ツ. 第1回男子ジュニア合宿（5月1日～4日、国土館高校）
  - テ. 第2回男子ジュニア合宿（10月3日～6日、国土館大学）
  - ト. 第3回男子ジュニア合宿（11月20日～24日、NTC）
  - ナ. 第4回男子ジュニア合宿（12月1日～7日、講道館）
  - ニ. 第5回男子ジュニア合宿（12月13日～17日、NTC）
  - ヌ. 第6回男子ジュニア合宿（2月22日～25日、NTC）
  - ネ. 男子ジュニア個別分散合宿（4月2日～3日、福岡大学）
  - ノ. 第1回女子ジュニア合宿（7月23日～27日、福岡武道館）
  - ハ. 第2回女子ジュニア合宿（9月22日～25日、NTC）
  - ヒ. 第3回女子ジュニア合宿（11月29日～12月6日、講道館・NTC）
  - フ. 第4回女子ジュニア合宿（2月9日～12日、NTC）
  - ヘ. 女子ジュニア個別分散合宿（5月～10月、各地で2回実施）
  - ホ. ジュニアブロック合宿（東北・北海道）（10月27日～29日、山形市総合スポーツセンター）
  - マ. ジュニアブロック合宿（関東・北信越）（10月27日～29日、栃木県立県北体育館）
  - ミ. ジュニアブロック合宿（近畿・東海）（10月27日～29日、兵庫県立武道館）
  - ム. ジュニアブロック合宿（中国・四国）（10月27日～29日、広島県立総合体育館）
  - メ. ジュニアブロック合宿（九州）（10月27日～29日、グローバルアリーナ）
  - モ. 小学生強化教育合宿（12月22日～24日、講道館・NTC）
  - ヤ. 競技者育成合宿（2月9日～11日、講道館・NTC）
- (3) 海外合宿（6件）
- ア. 男子欧州合宿（6月28日～7月8日、スペイン）
  - イ. 女子欧州合宿（6月28日～7月6日、スペイン）
  - ウ. ウルガット合宿（男子）（7月16日～23日、フランス）
  - エ. ミッタージル合宿（女子）（1月7日～13日、オーストリア）
  - オ. 海外個別分散合宿（7月、1月、フランス・ウズベキ・オーストリア・ドイツ）
  - カ. 男子ジュニア韓国合宿（11月13日～18日、ソウル）

(4) 海外チーム受入れ (3件)

- ア. ドイツジュニア受入れ (女子) (11月30日～12月6日、NTC・講道館)
- イ. 韓国ジュニア受入れ (男子) (12月13日～18日、NTC)
- ウ. ドイツジュニア受入れ (男子) (12月13日～18日、NTC)

(5) 海外コーチ派遣 (件)

- ア. ブダペスト世界選手権大会事前調査 (6月5日～9日、ハンガリー)
- イ. 世界選手権大会視察 (8月23日～9月5日、ハンガリー)
- ウ. 世界ジュニア選手権大会視察 (10月13日～24日、クロアチア)
- エ. IJF 審判・コーチセミナー (1月18日～21日、アラブ首長国連邦)
- オ. GS パリ視察 (2月6日～13日、フランス)
- カ. GS デュッセルドルフ視察 (2月18日～3月2日、ドイツ)
- キ. GS エカテリンブルグ視察 (3月12日～20日、ロシア)

2. 全国少年競技者育成事業 (JSC スポーツ振興くじ助成事業)

全国10地区において小中学生有望選手の発掘、育成を目的とした合宿を実施し、柔道の技術指導や栄養等の講義を実施するための講師を派遣した。また、今年度は今後の選手発掘のための基礎資料とすべく小学生の体力測定を実施し、来年度以降も継続していくこととした。各地区における合宿、派遣講師の詳細は以下の通り。

- ① 北海道 (小学生) (12月2日～3日、北海道総合体育館、派遣講師4名)
- ② 北海道 (中学生) (1月26日～28日、北海道総合体育館、派遣講師3名)
- ③ 東北 (小学生) (7月15日～17日、久慈市民体育館、派遣講師2名)
- ④ 関東 (小学生) (7月24日～26日、埼玉県立武道館、派遣講師4名)
- ⑤ 東京 (小学生) (4月16日、講道館女子部道場)
- (中学男子) (5月7日、講道館学校道場、派遣講師1名)
- (小学生) (6月3日、講道館女子部道場、派遣講師1名)
- (中学男子) (6月4日、筑波大学付属高校)
- (中学男子) (7月1日、講道館学校道場)
- (小学生) (7月22日、講道館女子部道場、派遣講師1名)
- (小学生) (9月2日、講道館学校道場、派遣講師1名)
- (中学男子) (9月3日、講道館女子部道場、派遣講師1名)
- (中学女子) (9月18日、講道館大道場、派遣講師2名)
- (中学女子) (11月19日、講道館女子部道場、派遣講師1名)
- (中学女子) (12月10日、講道館女子部道場)
- ⑥ 北信越 (小学生) (9月16日～18日、上田自然運動公園総合体育館、派遣講師4名)
- ⑦ 東海 (小学生) (7月15日～17日、蒲郡市武道館、派遣講師3名)
- ⑧ 東海 (中学生) (1月6日～8日、豊田市武道館、派遣講師3名)



- ⑨ 近畿（小学生） （9月16日～18日、五條市上野公園総合体育館、派遣講師3名）
- ⑩ 中国（小中学生） （7月29日～31日、広島県立総合体育館、派遣講師5名）
- ⑪ 四国（小学生） （6月24日～25日、高知県立武道館、派遣講師4名）
- ⑫ 九州（小学生） （1月20日～21日、福岡武道館、派遣講師3名）
- ⑬ 九州（中学生） （10月7日～9日、阿蘇青少年交流の家、派遣講師3名）

### 3. アスリートパスウェイの戦略的支援事業（JSC委託事業）

地域タレントからナショナルタレントへの育成システム構築を目的とし、中学生とその指導者を対象とする以下の事業を実施した。

- ① 第1回事業推進会議 （4月9日、大阪ラクタブドーム）
- ② 第2回事業推進会議 （6月9日、全柔連分室）
- ③ 第3回事業推進会議 （7月23日、福岡マリンメッセ）
- ④ 第4回事業推進会議 （8月21日、福岡国際センター）
- ⑤ 地区合宿の実施 （10月27日～29日、山形、栃木、兵庫、広島、福岡）
- ⑥ 合宿参加指導者アンケート実施 （12月）
- ⑦ GS東京における研修会 （12月1日～4日、東京体育館、講道館他）
- ⑧ GS東京参加者アンケート実施 （1月）
- ⑨ 事業検証会議 （3月20日、日本武道館）

### 4. 有望アスリート海外強化支援事業（JSC委託事業）

ターゲットアスリート（阿部一二三、芳田司）の海外における強化事業を以下のとおり実施した。

#### （1）阿部一二三選手

- ① カッセルデフェルス合宿 （6月30日～7月8日、スペイン）
- ② 世界選手権大会 （8月23日～9月5日、ハンガリー）

#### （2）芳田司選手

- ① アジア選手権大会 （5月23日～29日、香港）
- ② カッセルデフェルス合宿 （6月30日～7月8日、スペイン）
- ③ 世界選手権大会 （8月24日～9月5日、ハンガリー）
- ④ サンノゼトレーニングキャンプ （9月15日～25日、アメリカ）
- ⑤ ワールドマスターズ （12月11日～19日、ロシア）

#### （3）科学研究部情報分析活動

- ① GSエカテリンブルグ （5月18日～22日、ロシア）
- ② アジア選手権大会 （5月23日～29日、香港）
- ③ GPフフホト （6月27日～7月3日、中華人民共和国）
- ④ 世界選手権大会 （8月24日～9月5日、ハンガリー）

5. 女性エリートコーチ育成プログラム (JSC 再委託事業)

全日本コーチの女性指導者3名(塚田真希、上野順恵、福見友子)を対象に、エリートコーチ育成を目的とし、合宿、海外遠征等へ参加する際の課題克服のためのプログラムを実施した。

6. 科学研究部

(1) 映像・情報活動

JSCが行っているハイパフォーマンスサポート(HPS)のスタッフと連携し、主要国際大会の試合撮影、筑波大と共同開発した柔道分析ソフト「GOJIRA」を活用し、映像をリアルタイムで取り込みながらポイントや技の種類、精度、組み手の分類、時間帯別の得失点、罰則などの情報、選手や審判員の傾向などを入力、データベース化している。これらのデータは選手、コーチへの即時フィードバックの他、対策ビデオ作成および映像配信、分析などに活用した。

(2) 体力測定

全日本強化選手および全国中学校大会出場選手、全国少年競技者育成事業に参加した小学生を対象に体力測定を実施し、データ蓄積、管理を行った。強化選手へは個人データ管理システムとの連携を図り、データをサポートスタッフが共有し、科学的に弱点の克服、ケガの予防などの指導を行った。

全国中学校大会での測定データ分析結果を報告書にまとめ、中学校指導者等の関係者へフィードバックした。

全国少年競技者育成事業での体力測定では、測定結果を合宿中に個人にフィードバックするとともに収集したデータを今後も蓄積し、将来的には有望選手発掘のための根拠となる指標のひとつとして活用できるよう分析を進めることとした。

(3) 減量対策、栄養指導

昨年度まで JSC ハイパフォーマンスサポートスタッフであった管理栄養士を本連盟専属として活動いただき、国内合宿、国際大会における選手の体重管理、減量における体調管理、栄養指導、食事メニューの調整等を行った。

また、ジュニアブロック合宿や競技者育成事業等、若年層の合宿における栄養講義では選手だけでなく、指導者や保護者への講義も行い、普段の生活に取り入れられる内容を説明した。

(4) 柔道競技の運動強度定量化プロジェクト

柔道競技の運動強度を定量化することを目的とし、皇學館大学で開催された合宿で、稽古中のハートレートのモニタリングを実施した。運動強度を定量化することで、競技特異性を考慮したトレーニングプログラムのデザインが可能になると考えられる。

分析には多くのデータの取得が必要になるため、データの蓄積と分析を合わせて進めていく。

(5) 形の動作分析とその映像化

「投の形」の動作を撮影し、分析することにより柔道投技の本質的な理解につながる。また、科学的なアプローチを映像化して配信していくことで、柔道のポジティブなイメージが広報できる。今年度は、「投の形」世界チャンピオンの動作を3次元動作分析装置で撮影し、反射マーカから3次元の情報の蓄積を行なった。

(6) エリートアスリートのジュニア期におけるメダルポテンシャル要因の抽出

現在のトップ選手にアンケートを実施した。今後、ジュニア期の環境や当時の実力等を確認し、どのようなジュニア期であったかを分析し、これからのタレント発掘の指標とすべく要因や条件をまとめていく。

以上

## (7) 国際委員会

### 【概要】

1. 国際柔道連盟（IJF）やアジア柔道連盟（JUA）、各国連盟等と連携を深めるとともに、ルール改正や大会運営方法等に関する意見交換や情報収集を積極的に行うため役員を主要な国際大会、国際会議に派遣した。また、各国柔道連盟より要請のあった受入業務や他団体と共同による招聘事業、派遣事業を行ったほか、グランドスラム東京等の国際イベントに側面的な支援を行った。
2. 平成27年度より開始した国際貢献活動であるリサイクル柔道衣、柔道畳支援事業ならびに学生ボランティア海外派遣事業も継続的に行った。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回（5月11日、11月2日、12月20日、平成30年3月1日）

### 【事業の内容】

#### 1. 派遣事業

IJF理事が多く集う国際大会に山下泰裕IJF理事が出席されるにあたり業務面における支援をおこなった。また、アジアで開催された審判試験やIJF主催大会に川口孝夫JUA審判理事を派遣した。その他にも、世界ベテラン選手権やアジアで開催された国際大会等にも役員を派遣し、各国役員との意見交換、情報収集を行った。

#### 2. 国際貢献活動

##### (1) リサイクル柔道衣、リサイクル畳支援事業

全柔連単独、もしくは外務省、JICA、NPO法人柔道教育ソリダリティー、株式会社日本通運等との共同事業として、3カ国へリサイクル柔道畳を約300枚、柔道衣を50着支援した。主な支援国は、以下の通り。

リサイクル畳                      ベトナム（110枚）、タイ（94枚）、ガーナ（100枚）

リサイクル柔道衣                  ベトナム（50着）

##### (2) 学生ボランティア海外派遣事業

学生ボランティア海外派遣事業として、下記の通り5カ国6都市へ15名の学生を派遣した。ネパールに関しては、外務省と共同事業でおこなった。

平成29年9月11日～9月20日      ネパール      3名

平成29年9月4日～9月13日      モンゴル      2名

平成29年8月16日～8月25日      中華人民共和国 南京      2名

平成29年8月16日～8月25日      中華人民共和国 青島      2名

平成30年2月4日～2月18日      ブータン      2名

平成30年2月16日～2月25日      インドネシア      2名

平成 30 年 2 月 21 日～3 月 5 日 モンゴル 2 名

(3) J E N E S Y S 2017 ベトナム柔道交流派遣

日本国際協力センター主催ベトナム柔道交流派遣へ学生 15 名、引率者 4 名を平成 30 年 3 月 6 日～3 月 14 日まで派遣した。

3. 受入事業

(1) 海外チーム受入上位 9 校に対する補助金支給

平成 28 年度の海外チームの受入実績上位 9 校（東海大学、国際武道大学、天理大学、筑波大学、山梨学院大学、国士舘大学、帝京大学、日本大学、日本体育大学）に対し、受入件数に沿って補助金を支給した。

(2) 日本で開催された国際大会への対応

日本で開催された以下の国際大会において、大会を成功させるために受入前の業務（申込のまとめ、招聘状の作成、海外連盟との通信等）、並びに大会期間中の業務（V I P、海外チーム受入対応）を行った。

平成 29 年 6 月 日本ベテランズ国際柔道大会（和歌山県）

平成 29 年 12 月 東京グランドスラム

(3) 海外チームの受入

海外柔道連盟から日本での合宿希望があった場合、全日本強化合宿や大学への練習参加の調整、国内移動と宿泊の手配、招聘状の発送等を行った。海外チームの来日情報は強化と共有し、強化選手が必要に応じて海外チームと練習できるよう配慮した。また、12 月のグランドスラム東京・国際合宿後には、東京キャンプを開催した。海外チームと日本の実業団や大学の選手を講道館に集め、男女とも 5 日間の国際合宿を行い、約 30 か国 500 名以上の選手が参加した。

(4) J S C - J O C - N F 連携プログラム招聘事業

S P O R T S F O R T O M O R R O W の一環で行われている J S C - J O C - N F 連携プログラム招聘事業を下記の通り行った。

① アセアン審判員、コーチセミナー

平成 29 年 8 月にマレーシアで開催される東南アジア競技大会に参加する 9 か国より、審判員、コーチを各 1 名ずつ招聘し、6 月 5 日～6 月 9 日まで味の素ナショナルトレーニングセンターにて上記大会で適用される I J F 新審判規定のセミナーを行った。

参加国 カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、  
フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム

② ブラジル男子、イタリア女子選手団招聘

12 月 1 日～12 月 10 日までブラジル及びイタリアより選手およびコーチを受入れ、講道館で開催された国際合宿に参加し、強化を図った。

以上

## (8) 医科学委員会

### 【概要】

1. 平成 29 年度の医科学委員会の主な事業は、全国・国際レベルの大会救護、全国レベルの救護講習会の開催、ナショナルチーム選手への医学的支援、重大事故予防のための検討、重大事故ゼロ運動への参加、医科学における調査研究（下記）、アンチドーピング部会活動などである。
2. 都道府県に大会救護、柔道事故予防活動を推進する者として「協力委員」を置くこととした。協力委員は、試合救護や柔道事故予防のための安全指導、啓発活動を行うもので、地区において人選を進め全国のネットワーク構築をめざしている。
3. 救護活動の充実を図るため 2 か所で救護講習会を実施した。
4. 第 5 回医科学研究会を開催し研究成果の発表、情報交換を行った。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 2 回（4 月 29 日、12 月 2 日）

### 【事業の内容】

#### 1. 大会救護

大会救護を行った主な大会は以下の通りである。

4 月 1-2 日	全日本選抜体重別選手権大会（福岡国際センター）
9 日	全日本カデ体重別選手権大会（東和薬品ラクタブドーム）
16 日	皇后盃全日本女子選手権大会（横浜文化体育館）
29 日	全日本選手権大会（日本武道館）
6 月 17-18 日	日本ベテランズ国際大会（和歌山県・白浜町総合体育館）
22 日	関東管区警察柔剣道大会（関東管区警察学校）
8 月 5 日	全国教員大会（講道館）
6 日	全国高校定時制通信制大会（講道館）
5 日	全国警察柔道選手権（日本武道館）
7 日	関東警察逮捕術大会（関東管区警察学校）
9-10 日	全日本ジュニア体重別選手権大会（埼玉県立武道館）
10 月 17 日	全国警察柔道選手権（日本武道館）
22 日	全日本形競技大会（講道館）
11 月 11-12 日	講道館杯全日本体重別選手権大会（千葉ポートアリーナ）
12 日	全国青年大会柔道競技（講道館）
17 日	全国警察逮捕術大会（警視庁術科センター）
12 月 2-3 日	グランドスラム東京（東京体育館）
3 月 20-21 日	全国高等学校選手権大会（日本武道館）

24-25日 近代柔道杯全国中学生大会（埼玉県立武道館）

2. 救護講習会の実施

初めての試みとして下記の通り実施し、受講者には修了書を交付した。講習では多くの質疑もあり救護の充実、意識向上につながった。

- (1) 7月29日 講道館教室 (91名受講)
- (2) 8月26日 愛媛県立武道館 (23名受講)

3. ナショナルチームの医学的支援、帯同

- (1) 国内合宿 3件（5月：井汲、8月：紙谷・井汲、12月：井汲）
- (2) 国際大会 5件（世界カデ：鷹取、ユニバ：井汲、世界選手権：紙谷・木田  
世界ジュニア：木内、グランドスラム東京：紙谷・井汲）

4. 医科学に関する調査、研究

- (1) 皮膚真菌トングランス感染症の罹患状況分析
- (2) やわらちゃん体操における効果と安全性に対する検討
- (3) 防護挙動力評価に向けた受身のスキルマッピング手法の構築
- (4) 交代浴が合宿中の大学柔道選手の睡眠に及ぼす影響
- (5) 脳振盪発生の現状分析

5. 協力委員全国ネットワークの構築

医科学委員会内に協力委員を置くことができるよう専門委員会規程を改正し、協力委員としての自覚を促し、意識付を図っていく。協力委員は、医科学委員会と協力をして救護、柔道事故に対する安全指導、啓発活動を行い、協力委員の全国のネットワーク構築をすすめている。

6. 第5回柔道医科学研究会の実施

12月1日、東京医科歯科大学お茶の水医学会館において第5回柔道医科学研究会を開催した。19件の柔道の医科学に関する研究成果が発表された

以上

## (9) アスリート委員会

### 【概要】

1. 「連盟運営に選手の意見を反映させる」という主目的となる事業の議論と周知を行い、男女強化・形競技強化・視覚障害柔道強化選手それぞれの問題把握、意見交換などの会議を実施した。
2. 柔道の広報普及・社会貢献に関わる事業について、柔道の魅力を高めるべく、大会時に PR ブースの設置や選手サイン会イベント、世界代表選手プロフィールカード作成を実施した。更には、2020 年を見据えてボランティア精神の向上、人材育成を狙いとった全国視覚障害者柔道大会高校生スポーツボランティア派遣事業を実施した。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 2回（5月22日、12月27日）
2. 委員長・副委員長会議 3回（4月6日、8月10日、10月20日）
3. アスリート関係分科会 3回（5月4日、7月27日、1月22日）  
4つのカテゴリー毎に強化選手からの意見などを把握した上で改善に向けた検討を行い関係者への情報共有などを行った。

### 【事業の内容】

1. 全日本選抜体重別選手権大会、グランドスラム東京大会会場にて PR ブースを設置し、子供用日本代表柔道衣を試着しての記念撮影サービス、また強化指定選手とのサイン会を実施した。PR ブースではアンチ・ドーピングのバナースタンド設置や視覚障害柔道についての資料を配布した。（4月1～2日、福岡国際センター及び12月2～3日、東京体育館）同様に世界選手権大会前には代表選手のプロフィールカードを作成し、選手自ら子供たちにカードを配布しファン向け交流ツールを作成した。
2. 全国視覚障害者柔道大会へ筑波大学附属高等学校の生徒 18 名を高校生ボランティアとして派遣し出場選手のサポートなど、ボランティア活動を実施した（11月26日、講道館）。

以上



## (10) コンプライアンス委員会

### 【概要】

1. 本連盟のコンプライアンスの確立、暴力事案等への対応を目的として設立された。今年度は秋田県、滋賀県などの指導者養成講習会等に委員を派遣し、コンプライアンス活動を実施した。
2. 大会等において女子選手にアンケートを実施して結果をまとめた。
3. 事案の申立てに対する対応では懲戒委員会を2回、不服申立て審査委員会を3回開催した。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 2回（6月12日、平成30年1月17日）
2. その他 随時メーリングリストによる意見交換を実施
3. 懲戒委員会 2回（5月16日、6月14日）
4. 不服申立て審査委員会 3回（9月11日、平成30年2月19日、3月12日）

### 【事業の内容】

1. コンプライアンス連絡の実施
  - ①全国指導者養成講習会 5月28日 NTC 大作副委員長
  - ②実業団団体大会 6月2日 アルビス小杉体育センター 小林委員
  - ③福岡県中体連指導者講習会 6月20日 アクシオン福岡 中原委員
  - ④神奈川県春季指導者研修会 6月25日 神奈川県立武道館 竹村委員
  - ⑤インターハイ男女監督会議 8月7、9日 がくと館大ホール 高澤委員
  - ⑥実業個人選手権大会代表者会議 8月25日 ベイコム尼崎 小林委員
  - ⑦滋賀県指導者研修会 10月29日 滋賀県立武道館 梶木委員長
  - ⑧秋田県指導者研修会 12月9日 秋田大学 竹村委員
2. 女子中学生、高校生に対するアンケートの実施  
アンケートを実施し、285名から回答がありアンケート結果をまとめた。
3. 各種処分の実施  
懲戒委員会2回を開催した。今年度の処分は都道府県における処分を含め6件であった。
4. 不服申立て審査委員会の開催  
2回の不服申立てを受理して、1回は処分の取消し、1回は申立てを棄却した。
5. 申立てに対する対応  
ホットライン、目安箱、電話等により61件の申立てを受理し対応した。

以上

## (11) 重大事故総合対策委員会

### 【概要】

1. 委員会は平成26年10月に発足し3年が経過し、今年度、死亡事故は0であったが、頭部外傷事故、頸椎事故、初心者事故など指導者、競技者に周知を図る必要のある内容の事故があった。
2. 事業内容は、広報委員会、医科学委員会、指導者養成委員会と連携して柔道事故ゼロ運動を実施した。作成した資料は、夏季安全対策チェック表、柔道の安全指導ダイジェスト版を作成し、ホームページに掲載した。
3. 委員会は1月から新メンバーとなり、新体制にて安全指導員の活性化、指導者末端までの安全指導資料の周知、安全指導講習会の計画案を設けた。

### 【会議の開催】

1. 全体会議3回（9月19日、平成30年2月5日、3月19日）
2. 部会2回（安全指導部会6月9日、資料作成部会6月29日）
3. 新、旧委員長等による会議 12月18日

### 【事業の内容】

1. 柔道事故ゼロ運動を広報委員会、医科学委員会、指導者養成委員会と連携して4月29日～5月31日実施した、通知を発出するとともに、ホームページ内で山下会長、井上監督他の動画を掲載して、安全指導の呼びかけを行った。
2. 安全指導広報部会を設けて、夏季安全対策チェック表を作成、熱中症関係資料の紹介、日ごろの用具準備、緊急時の対応策などをまとめて熱中症への注意を喚起した。ホームページに掲載して、安全講習会に活用するよう広報した。
3. 安全指導資料作成部会を設けて、柔道の安全指導第四版の内容から、指導者、競技者に知ってもらいたい箇所を簡潔にまとめた資料を作成した。ホームページに掲載して、各種大会、講習会等で安全指導を実施する際に活用するよう広報した。
4. 平成27年度より運用を開始した公認指導者損害賠償保険制度について、平成29年度は任意保険公務員加入制度を導入した。任意保険加入者は2,983名で前年より微増した。
5. 平成30年1月から委員会メンバーを縮小した。新委員長のもとで、昨年引き続き柔道事故ゼロ運動の実施、安全指導員連絡会議の実施（平成31年2月）、安全指導の年間計画案、報告書の提出、登録団体に対する全柔連から事故防止資料の送付などの方策案を決定した。

以上

## (12) 女子柔道振興委員会

### 【概要】

1. 女子柔道が当面する様々な課題に取り組み、女子柔道をより活性化する方策を推進することを目的とし、以下活動を行った。
2. 大会関係者全てが参加しやすい環境を整えるため、全国中学校柔道大会およびインターハイ柔道競技における大会会場内にスマイルルーム（託児室）を設置した。
3. 女子柔道に関する活動を行う都道府県を対象に活動状況の報告や意見交換の場を設け、情報の共有や幅広いネットワークづくりの場として活用頂き、都道府県の活動の活性化を図った。
4. 女子学生を対象に、指導者資格・審判員資格についての説明、先輩からのメッセージを伝える等、キャリアアップのためのセミナーを全日本学生柔道連盟との共催で天理大学および講道館の2会場で開催した。
5. 女子柔道選手が現役引退後も柔道と関わりを持ち、活躍して行くために必要な環境整備を目指し、その基礎資料を得ることも目的に、大学卒業生（柔道部/学生）を対象にWEBアンケートを実施した。
6. 各都道府県柔道連盟（協会）執行機関における女性役員数の調査実施および、調査結果の公表を行った。
7. 各都道府県柔道連盟（協会）における女子柔道に関する委員会・部会の現状把握を行う目的として書面による調査を行い、結果を理事会、評議員会、全国代表者会議にて公表した。

### 【会議の開催】

1. 全体会議 4回（5月12日、9月12日、11月24日、2月22日）
2. 委員長、副委員長会議 2回（4月21日、2月3日）

### 【事業の内容】

1. スマイルルーム（託児室）の設置  
8月8日から8月12日まで開催のインターハイ柔道競技（郡山体育館）と、8月22日から8月25日まで開催の全国中学校柔道大会（福岡国際センター）の2大会で児童を同伴する必要がある監督、コーチ、大会役員、審判員、大会係員を対象にしたスマイルルーム（託児室）の設置および、一般の観客を対象として授乳スペースの設置を行い、関係者全てが参加しやすい大会運営を目指した。
2. 女子柔道意見交換会の開催  
各都道府県柔道連盟（協会）における女子柔道に関する委員会・部会等の活動状況をアンケート形式で調査の上、活動に積極的に取り組んでいる都道府県代表19名を集め、活動状況の報告、情報の共有、ネットワークづくりの場の提供を目的に、

意見交換会を2月18日に講道館にて開催した。開催後、参加者にWEBアンケートを実施し活動状況や女子柔道に対する意見・要望を集約し結果を理事会、全国代表者会議にて公表した。

3. 女子学生キャリアアップセミナーの開催

3月16日（天理大学）、3月24日（講道館）の2日間において、女子学生を対象に、資格取得や現役引退後の柔道への関わり方についての啓蒙、各種資格取得の推進、大学卒業後や競技引退後の柔道離れ抑止を目的に、キャリアアップのためのセミナーを開催した。

①天理大学（参加者数95名）

②講道館（参加者数62名）

4. 女子柔道振興委員会アンケート（2017）の実施

全日本学生優勝大会の女子3人制、女子5人制に出場した62大学の卒業生を対象に現在の柔道への関わり方や、柔道の活動と家庭生活の両立等についての実態調査をWEBアンケートで実施した。結果、319名から回答を得、集約した結果を理事会、評議員会、全国代表者会議にて公表した。

5. 各都道府県柔道連盟（協会）執行機関の女性役員数の調査及び結果公表

平成29年度の各都道府県柔道連盟（協会）執行機関における女性役員数を調査し現状把握を行った。また結果を理事会、評議員会、全国代表者会議で公表した。

6. 各都道府県柔道連盟（協会）の女子柔道に関する委員会等の調査及び結果公表

各都道府県柔道連盟（協会）で活動している女子柔道に関する委員会・部会等の連携を図り、女子柔道振興施策を実施、推進を目的に、現状の委員会や部会等の設置状況を調査し現状把握を行った。また結果を理事会、評議員会、全国代表者会議で公表した。

以上

### Ⅲ 事業報告 附属明細書

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上